

体育方法専門領域

朝岡正雄（環太平洋大学短期大学部），中川昭（筑波大学）

1. あらまし

以下では、体育方法専門領域と日本コーチング学会が組織統合された経緯とコーチング学に関わる近年の国際連携の動き、機関誌「コーチング学研究」の最近の取組と「コーチング学叢書」出版の取組、これらによって得られる知見の指導実践への関わり、実践研究を目指す若手研究者へのメッセージが述べられている。

2. 内外の研究動向

日本体育学会は1950年に設立されている。これに対して、体育方法専門領域のルーツは1955年に発足した「指導に関する部門」にまで遡られる。その後、分科会独自の研究誌を発刊するには独立学会の設立が必要であるという事情に迫られて、1989年に体育方法専門分科会から独立するかたちで「日本スポーツ方法学会」を立ち上げ、しばらくの間、体育方法専門分科会と日本スポーツ方法学会（後に日本コーチング学会に名称変更）は別組織として活動することになる。しかし、2005年にはもともと一つの組織から分化した2つの組織を再統合しようとする機運が高まり、数年にわたる真摯な議論を経て、2013年4月に組織統合がなされ、2015年3月には名称を「日本コーチング学会」とし、その事業の中に日本体育学会体育方法専門領域で行う事業を含める形で統合が完了して今日に至っている。

現在、本会の会員数はおよそ1800名であり、学会大会は夏の日本体育学会時と春の年2回開催されており、機関誌「コーチング学研究」も年2回発刊されている。また、2014年7月には札幌で第1回アジア太平洋コーチング学会が開催され、コーチング学領域では近年急速に国際連携の動きが活発化しつつある。さらに、2017年3月には日本コーチング学会出版委員会が中心となり、スポーツ指導に関わってこれまで蓄積されてきた「知」の体系化を目指し『コーチング学叢書』第1巻が発行される予定である。その後も、複数冊が『コーチング学叢書』として発行される予定になっており、今後のコーチング学領域における研究の活性化や研究成果の指導現場への浸透に大きく寄与することが期待されている。

3. 科学的知見の応用の状況

「コーチング学研究」では、年度末に発刊される号に、「コーチング学会に関連する各スポーツ分野の専門学術誌の最新動向」と題して国内13学会の機関誌に発表された論文の目次を掲載している。これによって、スポーツ種目ごとに独自の視点から行われている研究のレビューが可能になり、同時に実践研究分野で獲得された「知」の共有化をはかっている。さらに、2015年1月に刊行された『21世紀スポーツ大事典』（大修館書店）の「スポーツと技術・戦

術」の章では、体力をつけ、技術を身に付け、戦術に関する知識を獲得することによって競技力を高めようとする、これまでの還元主義的トレーニング法の問題点を指摘して、個人の運動感覚能力と見なされる技術力・戦術力を高める新しい方法論を構築しようとする提言が行われている。1970年代に東欧を中心に生まれた競技スポーツの指導理論は、学校体育や社会体育における指導の問題も包括しながら、現在大きな転換点にさしかかっている。

4. 学校体育や大学体育に活かすべき最新知見

日本コーチング学会では、ここ数年、「体育学におけるコーチング学の役割と意義」や「個別種目のコーチング論は統合できるか」といった講演やシンポジウムの表題に見られるような、すべての種目に共通する一般理論としてのコーチング学の構築をめぐる問題と、「コーチの学びに役立つ実践報告と事例研究のまとめ方」や「水泳のコーチングから見た実践研究の課題」に見られるような、個別種目の研究方法論の確立に関心が向けられている。体育学を構成する個別科学的研究が細分化と同時に蛸壺化する中で、科学的研究と指導実践との乖離が叫ばれている昨今、本会では、あらためて体育学とは何か、コーチング学とは何かに問いかける一方で、指導現場で生じているさまざまな問題を取り上げて科学的に解決する道を探るための議論を重ねており、ここ数年、機関誌「コーチング学研究」に掲載される多くの論文は実践に直結する成果を目指した研究の色合いを強めている。

5. 若手研究者へのメッセージ

日本コーチング学会では、2013年8月に機関誌「コーチング学研究」の投稿の手引きを大幅に改正し、論文種別を①「総説」②「原著論文」（論考・実践論文・事例研究）③「研究資料」④「実践報告」⑤「短報」⑥「書評」⑦「内外の研究動向」⑧「研究上の問題提起」に拡大して、現場に有用な研究成果をいち早く論文として掲載できるようにした。これによって、若手研究者による投稿数が著しく増加し、現在はこの状況に迅速に対応して実践的な研究を数多く掲載できるよう、編集委員会と審査委員会が活発に活動している。指導現場で活動している同学の若手研究者の本学会活動への積極的な参加と機関誌「コーチング学研究」への投稿を期待している。

6. 引用文献

1. 日本体育学会体育方法専門分科会会報、第36号、2010
2. 日本体育学会体育方法専門分科会会報、第38号、2012
3. コーチング学研究（日本体育学会体育方法専門領域会報合本号）、第26巻2号、2013
4. コーチング学研究、第27巻2号、2014
5. コーチング学研究、第28巻2号、2015
6. コーチング学研究、第29巻2号、2016

(2016年7月26日執筆)